

令和6年度 第2回栗山町ケアラー支援推進協議会

令和7年3月25日

報告事項

令和6年度 ケアラー支援事業報告

1. ケアラー支援推進月間の設置 （令和6年9月）

栗山町ケアラー支援推進月間

・支えが必要な人も誰かを支えている人も“みんなが笑顔、でいられる「まち」であるためにケアラーへの理解を深め、ケアラーが地域とつながり続けることができる社会を目指して、集中的に広報・啓発を行うことを目的とする。

- ・令和6年9月1日～30日の期間で設置
- ・拠点施設は、ケアラーズカフェ「サンタの笑顔」

※サンタの笑顔の集客アップも同時に図る

令和5年9月 315人 ⇒ 令和6年9月 670人(355人増)

ケアラードラマ「夕焼け」上映会



ケアラードラマ『夕焼け』の上映会を開催しました。定員を超える**25名**の参加がありました。

ファシリテーターは 栗山町教育委員会の教育相談員 袖野美佳さん

アイスブレイクでは参加者が番号カードを持って、同じ番号同士で自己紹介

上映会を見て、感動し目頭を熱くされる方、感動したという声など

人と人との付き合い方やケアラー・ヤングケアラーの言葉を考え直す良い機会になったと感想を頂きました。

※同ドラマは、ヤングケアラー出前講座、民児協、まちづくり協議会、ふれあい広場くりやま2024などで上映しています。



←自己紹介

↑上映の様子



介護サービス利用者作品展「K-1ぐらんぷり」

栗山町ケアラー支援推進月間の設置に伴い、介護サービス利用者（通所・入所利用高齢者を対象）が日々の活動の発表の場を作るのと併せて、ケアラーとカフェを通しての交流するきっかけを作ることで、より一層良好な関係を築くことを目的とします。

期間：令和6年9月7日（土）～令和6年9月13日（金）

場所：ケアラーズカフェ「サンタの笑顔」

出品された作品のグランプリを決める

⇒会場内に投票箱を設け、町民参加による投票形式にて来客者に心に残った作品に投票してもらい最多得票数に応じ、金銀銅賞を決定します。**賞状と景品**（コーヒーとケーキセット券）を贈呈します。

栗山町ケアラー支援推進月間イベント

介護サービス利用者作品展 「K-1ぐらんぷり」



※期間中、来場者の方には
コーヒーを1杯無料サービス

※イラストは絵の神様です。

展示会場	ケアラーズカフェ「サンタの笑顔」
展示期間	令和6年9月7日（土）～9月13日（金）
審査方法	会場内に投票箱を設け、町民参加による投票形式にて来場者に心に残った作品に投票してもらい最多得票数に応じ金賞1点、銀賞1点、銅賞1点、優秀賞5点を決定します（賞状及び副賞有）
対象者	高齢者介護サービスを利用している 通所及び入所施設利用者

主催 栗山町 栗山町教育委員会 栗山町社会福祉協議会

問合せ先 0123-73-2255（栗山町ケアラー支援推進月間事務局）

景品内容

グランプリ・金賞	1点	賞状とカフェのコーヒーとケーキセット券10枚
準グランプリ・銀賞	1点	賞状とカフェのコーヒーとケーキセット券 5枚
銅賞	1点	賞状とカフェのコーヒーとケーキセット券 3枚
優秀賞	5点	賞状

⇒ 次のサンタの笑顔の利用につなげ、

ケアラーと介護サービス利用者の交流の場を作る！

投票結果 投票総数 **149票**



作品展の様子



受賞作品



グランプリ(金賞)
「クレオパトラ」
那須 道子 様



準グランプリ(銀賞)
「花と少年像」
倉島 一郎 様



銅賞
「干支のマスコット」
堂前 フサ子 様

授賞式 (町長より賞状と景品の授与)



ケアラー支援講演会

・誰もが地域で介護し、介護をされる時代の中、地域で生活する上で、人は様々な悩みを抱えており、ヤングケアラーの子どもたちを始めとして、様々な問題を抱えている。ケアラーのみならず、その人らしく、ひとは、どのように生きるのかを問い直す機会として、新しい生き方を模索する中で、答えを見つけるヒントを得ることを目的として講演会を実施する。

・令和6年10月6日(日) 総合福祉センター「しゃるる」

・講師はむかわ町国民健康保険穂別診療所 副所長 香山 リカ 氏

・テーマ 香山リカ先生と考える『誰もが自分らしくいられるように』

・参加者数 **184名**(ケアラー関連講演会過去最多 町内128名 町外56人)

講演会の様子



香山リカ氏

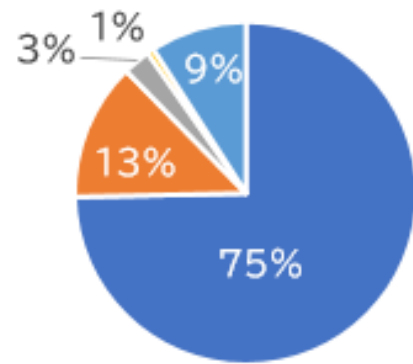


↑会場の様子 ↓書籍販売&サイン会



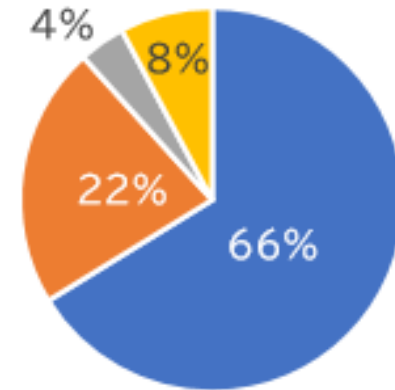
アンケート

問2 今日の講演会をどのようにお感じになったかお尋ねします。
(よかった) 1-2-3-4 (悪かった)



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 無回答

問3 今回、参加して自分自身を見つめなおすきっかけになりましたか？



■ とてもなった ■ ややなった ■ 特に変わらない ■ 無回答

※次年度、研修参加希望は77%

参加者の感想(抜粋)

- ・人生100年の今、リハビリ等々、町や家族は一生懸命になるが、あるがままの姿を受け入れる心の余裕が大事と・・・良かったです。自分の時間が大事だと！困ったら頼りますね。困ったらまず話し、聞いてみるが大事と・・・良かった！
- ・とても勉強になりました。住民目線で相談の仕方、サービスの利用の仕方の話や支援されるだけのとらえ方でなく、支援している方にも恩恵があると認識を持って、レッテルを貼られることなく生活できることが望ましいなと思います。
- ・香山氏わかりやすく、見つめなおすというより、自分自身の確認ができた。今はこれでいいのだ！！これから先はどう考えがかわるかわからないが、それはその時考え悩むとする。これからもこのような講演会をこれからも希望する。地元で参加できる事は良い！！
- ・自分を否定しない。よくやっているねと自分を褒めちぎる。このことが心に残りました。

2. ケアラーサポーターの訪問活動 とケアラーアセスメント

ケアラーサポーターの訪問活動



ケアラーサポーター 15名が活動中 電話サービス、訪問活動を継続中

令和6年度(令和7年2月末現在) 訪問件数275件

ケアラーアセスメントの実施

- ・令和5年度より、社会福祉協議会にてケアラーアセスメントの試行的実施がスタート
- ・現在は、30件程度のアセスメントを実施

⇒ 令和6年度に効果測定

【評価】

- (1)ケアラーの支援による変化がわかり、支援(介入)とその効果が把握できる点が良い
- (2)ケース記録の書き込みになり、しっかりと支援記録が残されている
- (3)横の連携による情報の共有化のツールになる

⇒ マネジメントを意識した**新様式**に変更 ※ヤングケアラーは非連動

町内の居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)にも波及させる動きをスタート

新様式とアセスメント実施の協議

・新様式

- ①実態把握のアンケート(様式1)
- ②マネジメント・分析(様式2)
- ③ケアラーと被介護者の生活把握(様式3)

令和6年10月に実態把握のアンケート(様式1)を地域包括支援センターの利用者5件に対して実施

⇒その結果に基づき、令和6月11月に町内の居宅介護支援事業所に、アンケート実施を依頼し、令和7年2月にアンケートに関しての意見交換

居宅介護支援事業所からの意見

Q2: アンケートを取っての気づき(気がついた点、良かったと思える点、難しかった点)

- ・被援助者がいる前での面談になるため、ケアラーに聞き取りづらい。本人もアンケートを見てしまう。
- ・アンケートを取ってみて、ケアマネの受け止め方と同様であり、意外性はなかった。
- ・ケアラーの大変さを改めて感じる事ができた。
- ・アンケートの深掘はできなかったが、回答内容にケアラーはどのように受け止めているのかという疑問点もあった。
- ・困っているというところに○をつけるが、内容を見て、ケアラーの回答を受け止めなおした。
- ・1被援助者のケアラー2名にアンケートを依頼したところ、2名の回答にギャップがあり、考える材料になった。

- ・聞き取りでの方法と、紙面を渡しての方法と2つの方法を試した。聞き取りはなかなかしにくい。紙面の場合は、ケアラーは被援助者から離れた場所で記入した。

- ・ケアラーにアンケートをとったとして、次にどのように進めていくのか、それでどうするのかと流れが止まってしまう。

- ・アンケートを取った場合、ケアラーが困ったところがあったとしても、では次に何に繋げるかが問題になる。アンケートだけでは、その先がわからないため、具体的に示すような項目があってよい。

- ・何のためにアンケートが必要なのか、ケアラーに伝わらないと、ケアラーもアンケートを記載する理由がわからず、先も見えない。取る側も説明しにくい。

Q3: 普段の業務量を考えるとアセスメントを実施することは可能かどうか。

設問に対して、アンケートを取ることは可能である、条件付けを行えば可能であるという質問に対しての、周囲の反応あり。

【その他の意見】

- ・普段の業務をこなすのが精いっぱいであり、ケアラーのアセスメントまで手が回らない本来業務をこなすことに注力したい。

- ・町でケアラーにアンケートを配布する(郵送など)方法を取り、回収したアンケートに対して、その内容を精査し、それに基づいて、ケアラーをアセスメントする(協議する)方法をとっても良いのではないか。

回答: ケアラーを特定することができない、アンケートを配布することが難しい。また、個人情報の同意もあるため、郵送にあたっては同意が必要になる。配布は、ケアマネに協力を依頼することになる。

- ・誰がケアラーを支援するのか、法的にも明確になっていない。アンケートを取ったとしても、ケアマネは何もできないという葛藤が生まれてしまう。

- ・アンケートを取ることはできる。その内容を元に、ケアラーの支援について、みんなで話し合うことができればよいと思う。

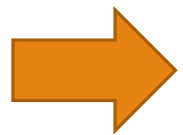
Q4: 介護報酬上の加算になった場合は、どのように考えるのか。

・要件とマンパワーや単価など状況による。法的義務なら、こういった形であれ、対応することになるのではないか。

今後の方向性



- ・アンケート(様式2号)から進めていき、アセスメント・サポートシート(様式1号)の導入は、その後とする。
- ・ケアラーからアンケートを取り、その後のアセスメントと支援の繋げ方を明らかにし、事例検討につなげる仕組みづくりを行う。
- ・アセスメント(アンケート)をどのような目的で取り、どのようにつなげるかのツールづくり
- ・協力が可能なケアマネから、アセスメント(アンケート)を進める。



令和7年度にフレームづくりを行う

※社協のアセスメントは先行的実施として評価し、予算反映(R7)

3. ヤングケアラー支援

ヤングケアラー出前講座

【目的】

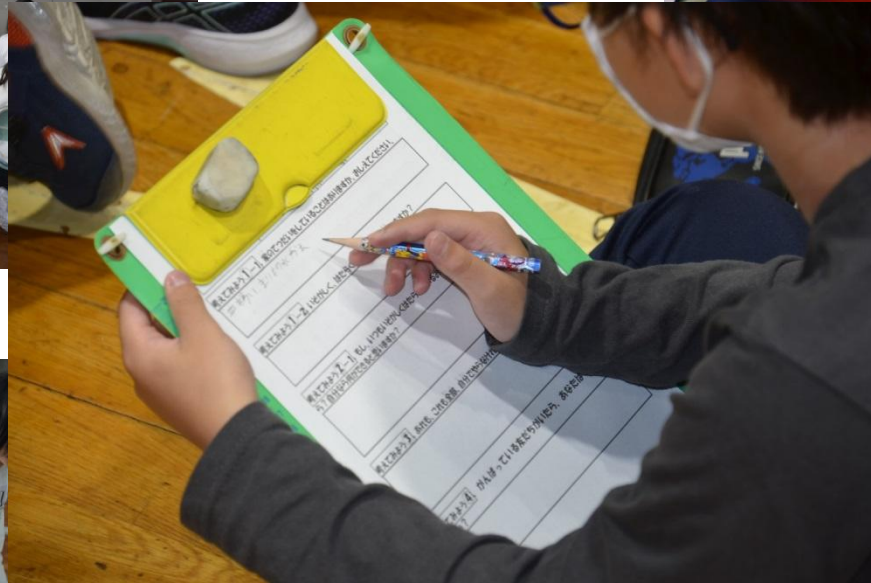
第2期栗山町ケアラー支援推進計画に基づき、ヤングケアラーが、家庭の状況と己の立場へ「気づく」ことができる機会を作り、支援が必要なことを発信できるための学びの場を作することを目的とする。**※令和5年度より実施**

今年度より、**介護福祉学校**を追加（今後、継続予定）

小学校3校、中学校1校、高校1校、介護福祉学校の**合計6校**で実施（R6.9～R7.2）

【内容】

- ・**小学校**はヤングケアラーの言葉を使わずに、親がけがをした時にどうするのか、気づきと発信力を養うこと目的として、ワークシートを活用した。
- ・**中学校・高校・介護福祉学校**は、ケアラードラマ「夕焼け」上映後に、学ぶ機会を作る。



支援体制の構築

【相談窓口】

小学校・中学校 ⇒ 教育委員会

高校・介護福祉学校他 ⇒ 子育て支援センター

【アセスメントツール】

令和6年7月に栗山町校長会経由で早期介入・支援のためのアセスメントツールの活用を学校側に依頼する。かつ、支援機関に「つなげる」ための活用ツールの提供（支援者共通）

※教員に対象の子どもを見つけた時に、今後の支援を「見えやすくする」ためのツール

※前回の本協議会にて説明

【相談事例】

2件（令和7年2月現在）

ヤングケアラー早期発見のためのアセスメントシート

0. 児童生徒の基本情報

学校名			記入者	
児童名（学年）		（ 年）	住所	
家族構成	父	（ 歳）	特記事項	
	母	（ 歳）		
	祖父	（ 歳）		
	祖母	（ 歳）		
	きょうだい	（ 歳）		
	きょうだい	（ 歳）		
	きょうだい	（ 歳）		
	その他	（ 歳）		

1. 早期発見のためのチェックリスト（子どもの権利に基づいて）

教育を受ける権利	☐ 欠席が多い 又は 不登校 ☐ 遅刻や早退が多い ☐ 保健室で過ごしていることが多い ☐ 学校にいないはずの時間に、学校以外で姿を見かけることがある ☐ 学力が低下している ☐ 宿題や持ち物の忘れ物が多い ☐ 保護者の承諾が必要な書類などの提出遅れや提出忘れが多い ☐ 学校（部活含む）に必要なものを用意してもらえない ☐ お弁当を持ってこない 購入したパンやおにぎり、弁当が多い ☐ 部活に入っていない 部活を休むことが多い ☐ 修学旅行や宿泊研修などの行事を欠席する ☐ 教材費など徴収金が未払いである ☐ 一人で過ごしていることが多い ☐ 進学に意欲を感じられない
	☐ 体調が悪くても病院に通院・受診できない ☐ 心身ともに不安定さがある ☐ 給食時に過食傾向が見られる ☐ 表情が乏しく 顔色が悪い ☐ 将来に対する不安や悩みを口に出している ☐ 極端に痩せている または 痩せてきた ☐ 極端に太っている または 太ってきた ☐ 生活リズムが整っていない ☐ 息だしなみが整っていないことが多く 体調が気になる
子どもらしくくつろげる権利	☐ 就学前に幼稚園や保育園に通っていない ☐ アルバイトをしている（生活のため） ☐ 家族の介助や付き添いをしている姿を見かけることがある ☐ 姉や弟の送迎をしている姿を見かけることがある（保育園・幼稚園・習い事等） ☐ 子どもだけでいる姿をよく見かける ☐ 年齢と比べて大人びた表情や言動を見せることがある ☐ 友達と遊んでいる姿をあまり見かけない ☐ 虐待、作話等が見られることがある ☐ 優等生的な言動が多くみられることがある

ヤングケアラーの可能性 有 無

ヤングケアラー実態把握のためのアセスメントシート

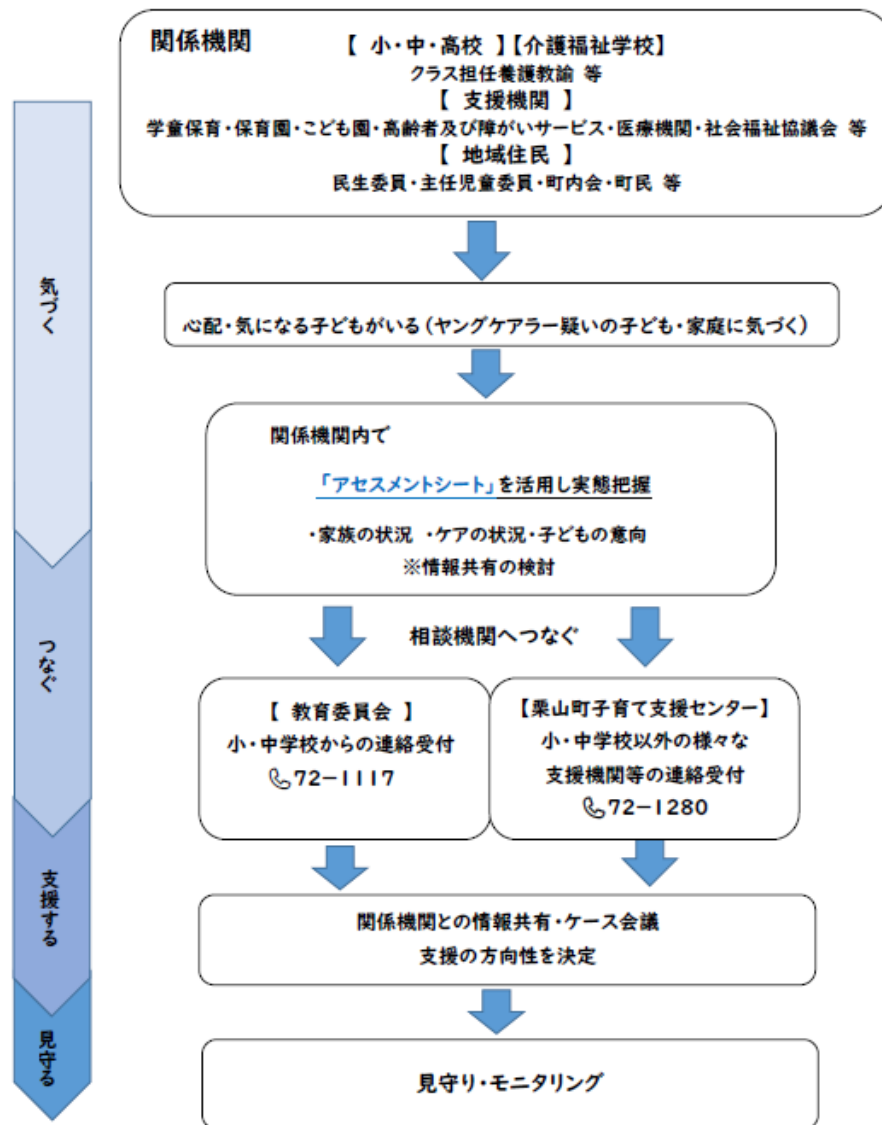
1. 実態把握のためのチェックリスト

ケアが必要な家族の有無とその状況	☐ 特にない ☐ 高齢な家族がいる ☐ 障害がある家族がいる ☐ 疾病（精神疾患等）を抱える家族がいる ☐ 幼い兄弟が多い ☐ 親が多忙である ☐ 親の生活能力や養育力が低い ☐ 経済的に苦しい ☐ その他	
	☐ 特にない ☐ 身体的な介護 ☐ 情緒的な支援 ☐ 兄弟の養育 ☐ 通院や外出の支援 ☐ 服薬管理や投薬支援 ☐ 家事	☐ その他
その他	★児童生徒の様子や思い 	

【連携機関】

- | | |
|------------------------------------|--|
| ☐ 教育委員会 | ☐ 岩見沢児童相談所 |
| ☐ 子育て支援センター | ☐ 地域包括支援センター |
| ☐ 児童センター | ☐ 子ども発達サポートセンター |

アセスメントシート活用 フローチャート



※アセスメントシートの活用により、ヤングケアラー事例ではなく、虐待事例や、経済的困窮などの複合的な問題にシフトすることがある。

※アセスメントシートは、定期的なケース会議の場での、ヤングケアラーの現況確認としても有効である。（ヤングケアラー又はその世帯課題の明確化）

議題 1

令和6年度 栗山町ケアラー支援推進計画評価

令和6年度評価

栗山町ケアラー支援条例及び第2期栗山町ケアラー支援推進計画により、計画評価を行う者とされています。

様式の変更点

・前年度まで、評価シートにおいて 事業の進捗状況の項目を削除

※理由

これまで「○(概ねできている)」、「△(準備中)」、「×(要検討・未着手)」を事務局側で評価したものを原案提示していました。

⇒3年間での計画的に事業を実施するところでもあり、○△×の評価は、主観的かつ事実と異なる印象を与えてしまうため、評価を委員の皆様のコメントと、方向性として「継続」、「変更」、「終了」の三段階評価のみに変更しました。

※**令和7年4月末まで**に事務局(福祉課高齢者・介護・医療グループ)に提出願います。

なお、様式については、メール希望の方は送信いたします。

議題 2

令和 7 年度の予定

ケアラー支援推進月間

・テーマは「**認知症**」

ケアラー支援講演会

「あなたは認知症になっても安心して、まちを歩けますか？」(仮)

鉄道事故裁判 家族の高井隆一氏を招いて講演(愛知県大府市)

⇒**SOSネットワーク**との連携と見守り体制(**栗山町見守り・安心ネットワーク**)を周知

その他に！

・「**K-1ぐらんぷり**」の対象拡大

・**認知症VR講座**との連携(高専連携事業一栗山高校と介護福祉学校一とタイアップ)



ケアラーアセスメント

- ・社会福祉協議会のいのちのバトン世帯で行っているケアラーアセスメントの対象者の拡大
⇒居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)と連携
 - ・様式の改編とマネジメントの試行的実施
 - ・アセスメントパス(アセスメントの目的と利用できる社会資源のつなげ方・クリティカルパス)
 - ・事例検討会の開催検討(事業者間で相談できるフレームづくり)
- ※ボトムアップからの事業づくりを進める。

ヤングケアラー支援

- ・出前講座の継続実施

⇒ 「医療」に対してのアプローチ(病院・診療所・薬局)の検討

※全国的には母親をサポートしながらの受診ケースなど報告あり。

また、「医療での信頼関係」をどこまで活用できるかの検討

- ・学校を含めた支援体制の強化
- ・若者ケアラー(介護福祉学校との連携他)の支援策についての意見交換
- ・実態調査の実施(今回は令和5年度調査) ⇒ 学校側との情報・意見交換

※第3期計画の基礎資料の位置づけ